

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム かたらい 1階	評価実施年月日	平成21年6月1日～平成21年11月30日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年12月20日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	ホーム開設より3年が経過し、今年度は新しい理念を作成している。理念にはどのようなホームにしたいか、どのようなケアを目指しているか職員の要望や意見を聞き、取り入れている。理念に掲げた「心をつなぎ合い、支えあい、その人らしい生活を楽しめるよう支援していきます」に努めている。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念に基づいたケアを提供できるように、スタッフ間で話し合いの機会を持っている。日頃から意識できるようにホーム内に掲げ、実現に向けて努力している。また、申し送りや会議等でも理念について話し合いをする事で日常的に確認したり、ケアに活かせる様取り組んでいる。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	新しい理念の説明を12月の家族会で行っている。理念実現に向けて今後どのように取り組んでいくかをお伝えしています。	○	新しい理念を理解していただくため、面会の際やお手紙・お電話で実現に向けた取り組みをお伝えし、ご家族の方々のお声も参考にして支援を行なっていく。また地域の方にも回覧板などを利用してお伝えしていく。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	平成21年10月町内会へ加入している。ホームを理解していただけるよう行事の際には回覧板や、ポスターなどでホームの取り組みをお伝えし、気軽に参加していただけるような機会を設け、地域の働きかけを行なっている。近隣の方より農作物を頂いたり、農作業でのご助言を頂いている。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	今年度は町内会で行なわれた防災訓練に参加している。地域住民の方々にホームでの行事に参加して頂くような働きかけを行ない、交流の機会を図っている。また、市内のグループホームとの交流を図っている。	○	町内会に加入したことにより、今後はより一層積極的に働きかけを行なって行きたい。また、利用者様が町内会で行なわれる行事へ参加できるよう援助を行っていく。今後、実習も積極的に受け入れ、地域との交流を図っていく。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	どのような形で地域への貢献ができるか町内会とも話し合っている。また、来所や電話にて介護上のご相談を受けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱や苦情相談窓口を玄関のインフォメーションボードに掲げており、入居時にお渡ししている書類にも外部機関の苦情窓口の連絡先を明記している。利用者様の中には意思表示が困難な方もおり、思いを外に出すことができない場面も多くあるため、スタッフは日々のかかわりの中でその方の思いや、訴えたいことについて気づいてあげられるよう努め、その声を受け止めケアに反映させるような体制作りに取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会の際や電話での連絡、1ヶ月に1度のお便りなどで日常生活の様子や、受診された際には結果についてお伝えしている。金銭管理も1ヶ月ごとに出納帳のコピーを送付し、金銭の用途をお知らせしている。お小遣いをお預かりする際も、預かり書への記入と出納帳の確認をしていただき、金銭の授受を明確にしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱や苦情相談受付などを用意し、入居時にお渡ししている書類にも外部機関の苦情窓口の連絡先を明記している。御家族から何かあれば記入し対応について話し合いを行っている。いただいた意見やお声は運営推進会議や家族会などで報告させていただき、改善すべき点などを検討し、ホームのケアに反映させていただいている。	○	御家族より御助言を頂ける事もあるが、今後は更に話しやすい環境作りに心がけケアの質向上に向け今後も取り組んでいく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議や意見箱・業務改善委員会などで報告・話し合いを行う機会を設けている。職員が発言しやすい環境作りに努めており、個人面談や、必要に応じて話し合いの機会を作っており、法人への報告も行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者様の状況の変化に合わせて職員間で話し合いを行い、状況に応じて勤務時間帯変更が必要な時には、調整を行なえるよう体制は整えている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ホーム内での異動や退職があり、職員の入れ替えがあったが、利用者様への影響を考え異動する職員・退職者と入職者の勤務が重なるようにし、申し送り・引継ぎを行っている。変わらないケアを提供できるような体制作りを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	引き続き各グループホーム協議会(十勝、北海道、日本)に入会しており、研修への参加等積極的に行っている。法人内の研修にも参加する機会を作り、研修で学んだことをホームでのケアに反映できるよう努めている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	前年から引き続き各グループホーム協議会に入会しており、様々な研修への参加等行っている。予定していた市内のグループホームとの交換実習の実施回数は1度であったので、来年度は回数を増やし実施し更なるケアの向上に向け取り組んでいくを検討している。	○	研修先として、同法人内の介護老人保健施設も検討している。また、今後も交換実習を継続していく。また、情報交換の場も設け、スタッフ間で交流ができるように取り組んでいく。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	勤務表作成時には希望を取り入れ、長期の休暇等でリフレッシュできるような環境作りに努めている。又定期的に個人面談も行い、仕事での悩みや、困っていることなど話し合う機会を作り、ストレスの軽減を図っている。今回法人内でのアンケートを実施し、今後の取り組みへの参考としていく。	○	利用者様の高齢化、健康状態や認知症の進行に伴い、職員の悩みが大きくなってきているため、今後も悩みごとなどを軽減できるようなかかわりに努めていく。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員からの意見をもとにした新しい理念を作りを行なっている。また、かたらい独自の課業一覧を作成し、その課業に沿って個人目標をスタッフ全員に立ててもらい、目標達成に向けて助言・指導を行っている。ケアの振り返り・楽しさを感じてもらえるよう研修への参加の機会を増やしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前に事前訪問を行い、施設を見学していただく等している。又、御本人の思いや要望をお話を通して確認し、ホームとしてどのようなことができるかお伝えしている。利用されるまでにスタッフは情報を共有し、ケアを行なえるよう努めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居の相談後から事前の訪問や施設の見学などを行っている。ホームを理解していただくために十分な説明を行い、不安なことや要望などを、御家族が伝えやすいような関係作りに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居の希望があった際には御本人・御家族と面談を行い、情報を収集しそれをもとに入居判定会議を行い、入居が可能であるか、必要としている支援は何か判断を行っている。状況に応じては法人内のサービスの説明させていただき、必要な対応ができるよう支援を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ホームでの生活を知っていただくため希望に応じて施設の見学などを行っている。ホームでも御本人の住みやすいような環境作りを行なえるよう、生活暦や御家族から情報収集を行い、ケアに反映すべく努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日々の生活の中で共に過ごす時間を大切に「利用者様の立場に立ったケア」の実践をご常に心がけている。職員は人生の先輩として利用者様から様々なことを学ぶ機会をいただいております、共に生活を送りながら、互いに支え合うような関係作りに努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者様の生活を支えていく上で、御家族の協力が大切であることを職員から機会があるごとにお伝えし、協力をいただいている。また御家族から御相談があった時にもお話しをお聞きしお力添えができるよう努めている。御家族の思いを全職員が理解・把握し、共に支えあえるような関係作りに努めている。	○	些細なことでも、御家族が遠慮せずいつでも声をかけて頂けるような関係作りを今後も持っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入所中も御家族とのつながりを大切にし、支援を行っている。お便りなどで近況をお伝えし、面会しやすいような環境作りを行っている。又、行事の際に参加して頂いたり、お誕生日のお祝い等で一緒に外食して頂くなど、共に過ごして頂く時間を大切にしている。	○	利用者様の御自宅に職員が同行し外出できるよう計画している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行きつけの美容院に行ったり、御家族にも協力して頂きながら知人の方の自宅に出かけたり、お見舞いに行くなど、本人の意向に沿った支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者様の性格などを考慮した上で、状況によっては職員も入りながら、互いが関わり合えるような働きかけを行っている。散歩や買い物、ドライブなど共通の趣味や思いなどを通して交流を図っている。また、逆に御一人で過ごす時間の大切さも職員間で話し合い、作っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	医療的な処置が必要になり、退所になった場合にも面会に伺ったりしている。また、連絡をし、気軽に遊びに来ていただけるような声かけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、その方の思いや望まれていることを職員は把握し、ケアに反映できるよう努めている。意思表示が困難な利用者様に対しては趣向などを参考にし様々な角度から働きかけを行い、ケアつなげている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前のアセスメントで情報収集を行い、可能であれば事前訪問も行っている。御家族の方にも、ホームでも御本人らしく生活していただけるような支援を行っていきたいことをお伝えし、理解を求め協力をお願いしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式を活用し、利用者様の生活歴や情報を全職員が把握し、その人らしい生活を送っていただくために支援を行っている。状況に変化が見られた時には、その都度フロア会議やミニカンファレンスなどで話し合いの機会を持ち、ケアにつなげるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	日々の関わりの中で気づいた、利用者様や御家族の思い・希望を取り入れられるような介護計画作りを実践している。職員間で情報の交換を行ったり、他職員からアドバイスをいただき、介護計画の作成に反映させている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じて行なっているが、状況の変化により支援が必要になった場合にはその都度見直し・変更を行っている。又、ミニカンファレンスによる話し合いや、リハビリ職員等の協力もいただき、介護計画の作成に反映させている。	○	更に生活状態と連動した計画ができるよう取り組んでいく。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録や介護日誌・連絡事項・ミニカンファレンス・リハビリ評価表などを活用し、全職員が情報を共有し、日々の中でのケアの実践、ケアプランの見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	同法人内の事業所で行なわれたミニコンサートに出かけたり、かかりつけ医への受診なども行っている。又、法人内の病院や介護老人保健施設・小規模多機能施設などと連携を図り支援を行えるような体制作りを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	行事の際には学生ボランティアや踊りの有志の方に参加していただくなど積極的な働きかけ・受け入れを行っている。今年度は町内会で行われた防災訓練にも参加している。	○	今後も交流の機会を確保していく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	希望や意向に沿って応じており、現在は訪問理美容を利用されている。入居の申し込みがあった場合にも他事業所と協力し、支援できる体制を整えている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括センターの職員にも参加していただき、ケアの在り方や福祉関連のサービスの情報交換を行っており、必要時には協力体制がとれるような関係構築に努めている。また、地域包括センターの職員にも行事などに参加していただき、助言等頂いたり、利用者様との関わりの中で気づいた点やQOLの向上に向け御相談をしている。	○	状況に応じ事例検討にて御助言を頂いていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医との協力体制を整えている。また、新しく病院にかかる時には、利用者様や御家族の意向を取り入れている。通院時は家族・スタッフが付き添い、受診の内容についてその都度ご家族に説明している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関で相談・助言・指示をいただけるような体制作りを行っており、必要に応じて受診・治療が行えている。必要に応じて、御家族にも説明して頂けるような機会も設けている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師との24時間連絡体制が整っている。利用者様の情報報告を行い、相談・助言を行ない状況によっては医師に連絡して頂き、受診等の指示を頂いている。また、緊急時の対応などの指導も行っていただいている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院の際には面会に伺い、医師・看護師から病状等をお聞きし、ホームスタッフで情報を共有し、いつでも受け入れができるような体制作りを行っている。状況によっては病棟で行われる会議やケアカンファレンスに参加したり、ご家族への病状説明の際にも同席させて頂き、退院に向けての準備を行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に重度化した場合における体制ができていないことを説明している。状態の変化が見られた時にはご家族・医師・看護師・医療相談員と今後の治療方針について話し合いを行い、スタッフ全体で情報を共有し、これからの対応につなげている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居の際に重度化した場合におけるホームでの対応について説明を行っている。状況が変化した場合には、その都度、医師・看護師・医療相談員なども交えた話し合いの機会を作り、具体的な支援方法について検討を行っている。	○	今後はホームで終末を迎えられるような体制作りを目指していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ホームから別の居宅に移り住まれた方はいないが、そのような時には、御家族同意の下ケース記録やセンター方式・フェイスシートや介護計画を活用し、情報提供できる体制作りを行っている。入院等でホームを長期間離れる時には、病院職員と協力し情報交換を行い、面会を行っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人情報の保護に関してはケアの一環であることをスタッフは理解し、日々のケアの中でも十分な配慮を行っている。言葉使いや利用者様への声かけなども十分な注意を払っており、職員間でも何か気づいたことがあれば情報の交換や話し合いを行っている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者様と共に過ごす時間を大切に、その中で表情やし草からその方の思いや望んでいること把握し、思いに沿った対応に努めている。また職員は、利用者様が常に自己決定できるような声かけや対応を心がけている。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>1日の生活の中で食事や病院への受診などの時間は大まかに設定しているが、利用者様の気持ちに沿い、それぞれのペースに合わせた支援を行うよう努めている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問の理美容を利用し利用者様の希望に応じて実施している。行きつけのお店を利用されている方もおり、出かける際の支援なども行っている。又身だしなみは、なるべくご自分で行っていただけるような声かけや関わりを持ちながら、不足している部分を職員がお手伝いさせていただきようにしている。また、できなかった時には時間をおいて対応している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者様の嗜好について職員は把握しており、季節の物を取り入れたり、苦手なものがあれば別メニューでお出しするなど、希望を取り入れた献立作りを行っている。料理屋盛り付けなどもお手伝いしていただいたり、一緒に味付けを行うなど、利用者様・スタッフで協力しながら行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	病気や健康面に配慮して上で本人の好みを把握し、時には食べたい物をご自身で選んでいただいたり、選択してもらうなど楽しんでいただくような支援を行っている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者様の状況を把握した上で排泄チェック表を利用し、失禁や失敗を少しでも減らせるようにこまめな声かけ・誘導を行いトイレで排泄していただけるよう努めている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の声かけは、利用者様の希望に沿った時間帯やタイミングで実施するよう努めている。状況によっては可能な限り早朝や就寝前の支援も行っている。また、安全な入浴が楽しめるよう個別型介護浴槽の導入を予定している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間安眠がとれていない状況が見られるときには、生活のリズムを整えるため日中の活動量を多くするため日光浴や外出などにお誘いしたり、入浴時間を配慮するなどしている。また、足浴や状況に応じては休息もすすめている。夜間眠れないときには職員と一緒に過ごしていただくなどの対応をとっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴やアセスメント・御家族からの情報をもとに、利用者様の個性や得意なことを生かした支援を行っている。(お世話が好きな利用者様にホーム内の家事を行っていただいたり、他利用者の食事介助、行事での挨拶などを手伝っていただいている。)意思の表示が難しくなっている利用者様に対しては、こちらから声かけや援助を行い支援につなげている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持つことの大切さを御家族にも理解していただけるよう、説明を行い協力もいただいている。お支払いの際には御自身で御支払いが出来る方は、財布からお金の出し入れを行っていただいている。お金の所持が難しくなった利用者様に関しては、こちらでお預かりさせていただき、御希望が聞かれた時にすぐに確認していただけるような体制を整えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者様の趣向に沿い、美術館に出かける機会を作った。意思の表示が難しい利用者様に対しては、趣向に沿った提案を行い実施している。日々の生活の中にも散歩をしたり買い物に出かける機会などを多く取り入れている。	○	今後も外出の頻度を多くし、地域や外気に触れる機会を確保していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	御家族の協力を得てお盆にご自宅に帰られたり、ご自宅の片付けに行かれるなど、利用者様の意向に沿った支援を行っている。また、昨年実施できなかったお墓参りにも行かれている。今後も外出の機会が少ない利用者様にも出かける機会を設けるようさまざまな働きかけを行なっている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	御家族から定期的にお電話やお手紙を頂き、協力も得られている。利用者様からもお電話でお話していただく機会も作っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間については希望に沿った対応をしている。どなたにも気軽に来ていただけるような雰囲気作りを心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを作成し、職員全体で把握し拘束を行わないケアに取り組んでいる。又、居間にコンプライアンスルールを掲示し、会議などの話し合いの中で再確認できる機会作りを行ない、日頃から意識できるようにしている。安易に身体拘束をしないように、日々のケアの向上に向け会議の中で職員の意見を取り入れ実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は自由に出入りができるように施錠は行っていない。夜間は安全・防犯上20時から早出職員が出勤するまで施錠を行っている。	○	今後も更に身体拘束への理解を深められるよう随時話し合いの場を作っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間で利用者様の所在を把握しており、生活の妨げにならないような声かけ・配慮を行っている。スタッフはできるだけ利用者様全員を確認できるような動きをしている。夜間や日中居室で臥床される際は職員間で情報を共有し、適時状況の確認、夜間においては2時間おき、もしくは必要に応じた確認を行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物やはさみなどは定数を定め、利用者様の手の届かないところに保管し管理を行っている。内服薬・常備薬に関しては鍵のかかるロッカーに保管し、あらたに保管が必要と思われる物については、その都度取り扱いについて話し合いを行い決めている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	各事故に対するマニュアルを作成し、発生時は対応している。事故報告書やヒヤリハット報告書を活用し、状況の応じてフロア会議やミニカンファレンスで話し合いを行い対策を検討している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事故発生時や急変の際のマニュアルを作成し、目につくところに掲示している。看護師と24時間連絡体制があり、夜間待機者も設け、事故発生時・急変時に対応できる体制を整えている。又、今年度は職員の普通救命講習の再受講を実施し、AEDの取り扱いなどについても再確認を行っており、ホームにもAEDを設置している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災訓練を年2回実施し、避難方法や消火の方法などについて消防署から指導を受けている。今年度は地域の町内会で行われた防災訓練にも参加している。災害発生時には協力していただけるように、病院・警備会社との連携体制も整えている。また、法改正にもとづき、スプリンクラーの設置する。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者様それぞれのリスクについて担当の職員が中心となり、状況によってその都度御家族への説明を行っている。医療的なことに関しては、医師・看護師、歩行等時のリスク等に関してはリハビリ職員にも協力していただき、直接話し合いの機会を持つなどしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルの変化や身体状況の確認を行い、異常の早期発見に努めている。異常が見られた際には看護師に連絡をとり速やかに指示をいただき、早期対応に努めている。日誌・申し送りを活用して職員間で情報共有を行っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋を活用しファイルを作成している。ファイルはフロアに置き職員がすぐに確認できるようにしており、各利用者様の内服薬の目的や副作用を理解している。変更があった場合には記録や申し送りで伝達を行い、スタッフに周知している。又、利用者の心身状況の変化をみながら、医師・看護師の指導のもと、調整・検討する機会を作っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排泄チェック表を活用し、便秘予防のため起床時の牛乳やカツゲン、おやつに寒天ゼリーの提供などを行っている。便秘の影響により、不穏や不眠、血圧の上昇などの不調が起こりうることを職員は理解し、食事や飲水などを平行し、レクリエーションなどを取り入れ日中の活動量を増やすよう努めている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後に口腔ケアの声かけ、御自身でできない方には職員がお手伝いするなど支援をおこなっている。又、歯科医の協力を得ながら、一人一人に合わせた口腔ケアの支援を行っている。口腔ケアができない時には、食後にお茶をすすめ飲んでいただいている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	調理職員が参考書をもとに献立メニューを考案している。また利用者様の嗜好や摂取状況に応じて別メニューを提供したり、水分摂取量が少ない方に対して好みの物をすすめたり、ゼリーなどで対応している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、予防・発生時の対応に努めている。通年を通し利用者様・ご家族・職員の手洗いうがいを実施し、ご家族の同意のもと肺炎球菌・インフルエンザワクチンの予防接種を行なっている。また、感染症予防の研修や勉強会に参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理マニュアルを作成し掲示している。マニュアルにもとづいて毎日消毒。食品の管理を行っている。食材についても配達や直売所を利用し、新鮮なうちに使い切るようにして、冷蔵庫を2つ使用し使い分けを行っている。また、食事準備時には十分な手洗い・消毒を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	プランターや畑にお花などを飾っている。玄関には椅子を用意し休憩をしたり、履物を履く際に利用して頂いている。玄関前にはスロープが設置してあり、冬期間も玄関先及び駐車場の除雪を徹底し安全に努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	職員同士の会話や調理中の物音、テレビのボリュームなど不快にならないような配慮を行っている。居室や廊下には普段の生活やご家族との写真を飾らせていただき、季節に合わせた飾りつけなども行なっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	玄関や居間のベランダ、西側出入り口に設置している椅子に座られ、過ごしていただけるような工夫を行っている。又利用者様同士がそれぞれの居室に遊びに行く機会などの作っている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅から慣れたしんだ物をお持ちいただき、ホームで使用していただいている。下着が古くなったり食器が破損した場合には、ご家族に連絡して持参していただいたり、一緒に買い物に行き購入している。入居後に必要になったものはご家族にお伝えし用意して頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日温度調節を行い、必要に応じて換気を行っている。各居室・居間に温度計を置き、冬期間には加湿器を設置している。巡回時・適時に確認と調節を行っている。トイレに関しては各勤務の終了時に汚物の回収と消毒と必要に応じて掃除を行っており、気持ちよく使用していただける配慮を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム内は手すりを設置しており安全に移動できる空間作りを行っている。歩行状態に障害がある方などは、病院のリハビリ科職員の協力のもとリハビリを行ない、ホーム内で安全に移動ができるような動線作りなど助言をいただきながら工夫を行っている。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>ホームでの生活に慣れ親しんでいただくために、環境の整備や個々に合わせた声かけや関わりを行っている。また状況に変化が見られた時には、その都度フロア会議やミニカンファレンスなどを行い、対策を検討している。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>2階利用者様が野菜栽培を行っている姿をベランダから眺めたり、散歩の際に建物の周りを活用している。玄関にはプランターを置き、水やりを利用者様に手伝っていただいたり、7月には毎年恒例の夏祭りを行ない、屋外駐車場を使用し食事をとったり、日々の生活の中でも、レクリエーションや天気の良い日には椅子を出し日光浴をしながらおやつを食べていただくなど、多く活用している。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- ①昨年度から実施している公文学習療法を継続し、利用者様の持っている力や意欲を引き出し、できることへの喜び・満足感を感じていただけるような関わりに努めています。
- ③認知症の進行に伴い、できないことが増えていく利用者様に対して、不安が軽減し心配事がなく過ごせるような関係・環境作りに努めています。④法人内の病院や協力病院と連携をと
- り、急変時の対応・早期発見と治療などの体制作りを行っています。⑤利用者様個人個人に合わせたケアや支援に取り組んでいます。(趣向に合わせた外出の支援など)
- ⑥安全安楽な生活に向け設備を整えている(AED、個浴型介護浴槽)。